

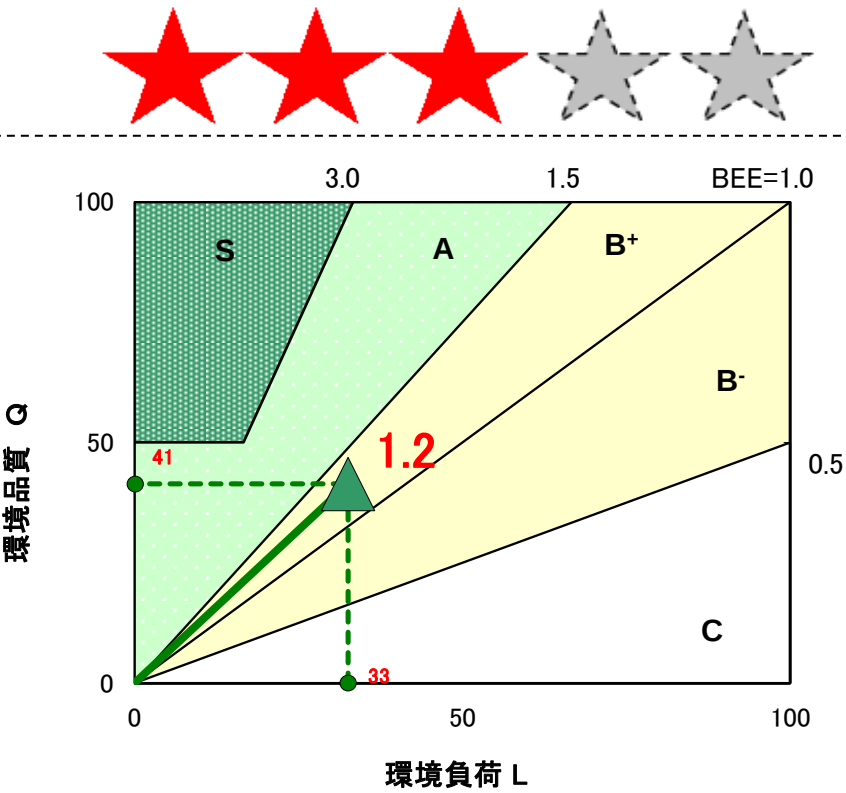
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	盲学校・熊本聾学校寄宿舎その他改	階数		
建設地	熊本市東区東町3丁目3番6の一部	構造		
用途地域	第二種中高層住居専用地域、指定	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	学校,集合住宅,	評価の段階		
竣工年	2019年1月 竣工	評価の実施日		
敷地面積	5,114 m ²	作成者		
建築面積	2,508 m ²	確認日		
延床面積	3,222 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.2

BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

62%

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



80

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	94.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	52.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	74.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

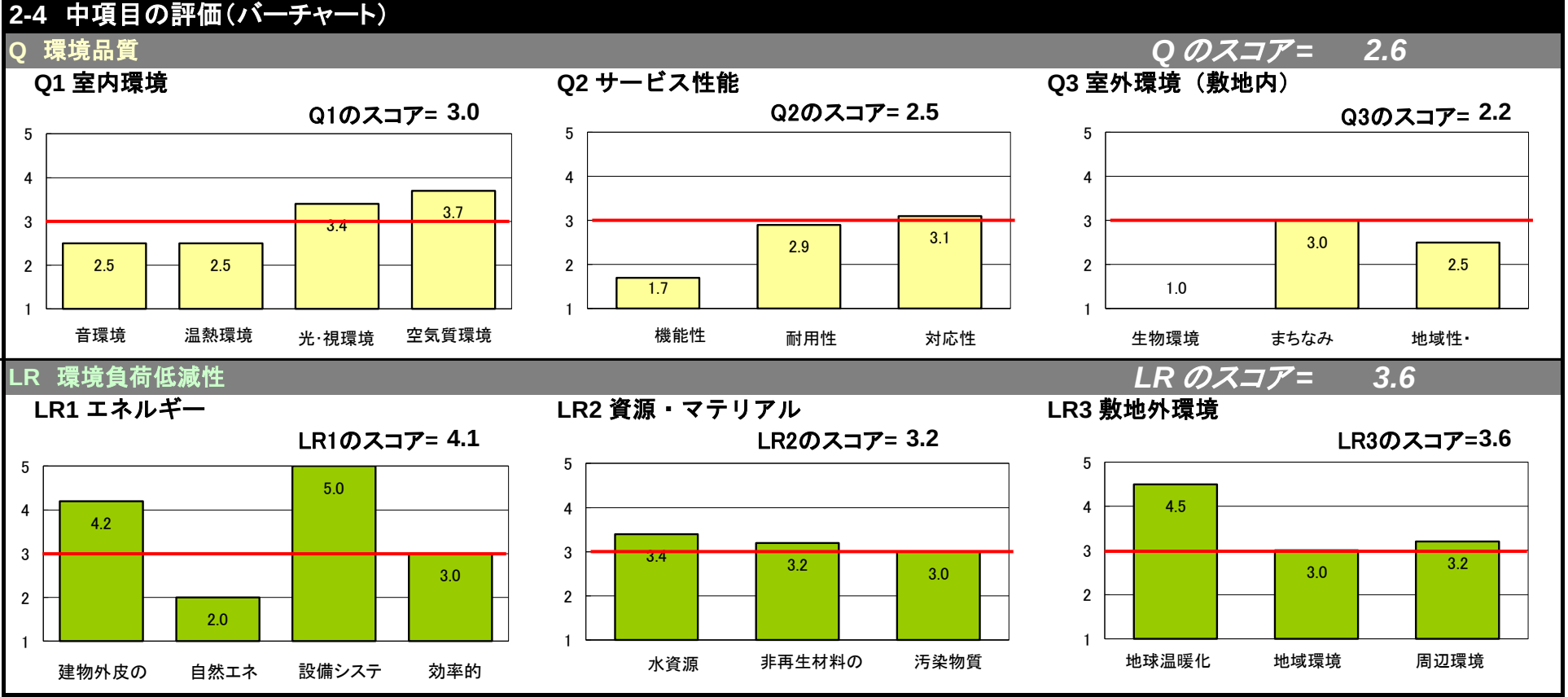
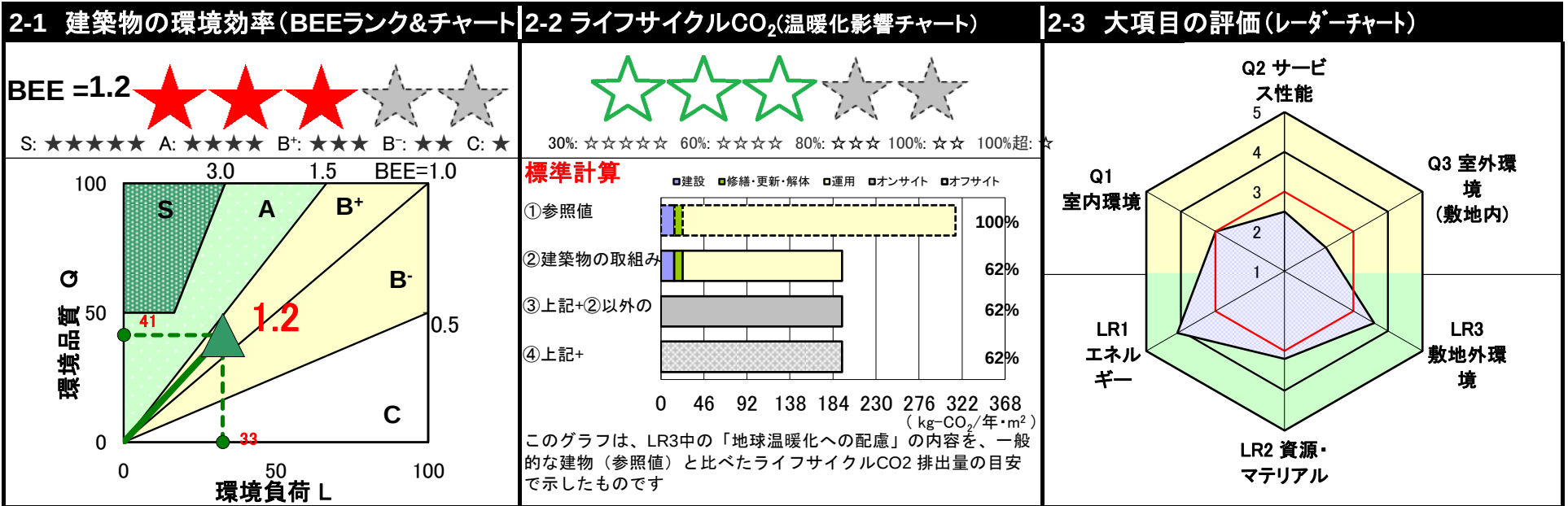
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	盲学校・熊本聾学校寄宿舎その他	階数	地上2F
建設地	熊本市東区東町3丁目3番6の一部	構造	木造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、指定	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 竣工	評価の実施日	2018年2月19日
敷地面積	5,114 m ²	作成者	吉永
建築面積	2,508 m ²	確認日	2018年2月19日
延床面積	3,222 m ²	確認者	伊東



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
盲学校・熊本聾学校寄宿舎その他改築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				2.5	0.15	2.5	1.00	2.5	
1.1 室内騒音レベル		【学校】共同教室45dB【共用部】エントランス50dB【住居部】舎室40dB		4.0	0.48	4.0	0.50		
1.2 遮音				1.0	0.48	1.0	0.50		
1 開口部遮音性能				1.0	0.84	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.07	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.04	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	0.04	1.0	0.20		
1.3 吸音		【学校】GW充填、タイルカーペット		4.0	0.04	-	-		
2 温熱環境				2.3	0.35	2.5	1.00	2.5	
2.1 室温制御				3.3	0.50	3.3	0.50		
1 室温				3.0	0.62	3.0	0.63		
2 外皮性能		【学校】窓SC:0.50、窓U:2.67外壁U:0.335 【共用部】窓SC:0.50、窓U:2.67外壁U:0.335 【住居部】等級4		4.0	0.38	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				2.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				3.1	0.25	3.6	1.00	3.4	
3.1 昼光利用				3.4	0.30	4.0	0.30		
1 昼光率		【学校】共同教室0.56【共用部】エントランス0.64【住居部】舎室2.65		3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備		【学校】ハイスайドライト【共用部】【住居部】昼光利用設備なし		4.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		【学校】【住居部】庇+カーテン【共用部】庇		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.5	0.25	3.8	1.00	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.58	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		【学校】【共用部】【住居部】F☆☆☆☆の採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				2.8	0.38	3.6	0.38		
1 換気量				3.0	0.46	3.0	0.33		
2 自然換気性能		【学校】共同教室0.022【住居部】舎室0.262>(1/6)		1.0	0.07	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.46	3.0	0.33		
4.3 運用管理				4.0	0.04	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙、喫煙室なし		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5	
1 機能性				2.0	0.40	1.6	1.00	1.7	
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40	1.0	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	1.0	1.00		
3 バリアフリー計画				1.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.4	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		【学校】天井高2.7m以上【住宅】天井高2.5m		5.0	0.11	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	0.89	1.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		①なし②耐水長尺シート張③耐水長尺シート張④ホコリの溜まりにくい設計 ⑤なし⑥維持管理法の異なる床材の接近無し⑦なし ⑧バルコニー設置により給排水配管の安全な維持管理作業 (特定建築物に該当しない) ①掃除具入の設置②なし③便所、ごみ置場に適当な水勾配を計画 ④廃棄物庫の設置⑤なし⑥共用部にコンセント設置 ⑦バルコニー設置により給排水気口、ガラスの安全な維持管理作業 ⑧各排水トラップ取外し・清掃可⑨必要機器、操作容易な位置 ⑩なし⑪諸設備、共用部維持管理可(MB)		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		

		2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
		3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
		4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
		5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
		3 対応性・更新性			3.1	0.30	3.2	1.00	3.1
		3.1 空間のゆとり			4.6	0.07	3.4	0.50	
		1	階高のゆとり	【学校】階高3.9m以上【住宅】階高3.0m以上	5.0	0.60	5.0	0.60	
		2	空間の形状・自由さ	【学校】0.19【住宅】1.56	4.0	0.40	1.0	0.40	
		3.2 荷重のゆとり			3.0	0.07	3.0	0.50	
		3.3 設備の更新性			3.0	0.87	-	-	
		1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
		2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
		3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
		4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
		5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
		6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
		Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
		1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
		2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
		3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
		3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
		3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
		LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
		LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
		1 建物外皮の熱負荷抑制		【学校】BPI _m :0.46【住宅】等級4	4.2	0.20	-	-	4.2
		2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
		3 設備システムの高効率化		【学校】BEI _m :0.65【住宅】資	5.0	0.50	-	-	5.0
		4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価			3.0	0.22	-	-	
		4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
		4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価			3.0	0.78	-	-	
		4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
		4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
		LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
		1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
		1.1	節水	節水コマ、節水型機器(擬音)	4.0	0.40	-	-	
		1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
		2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
		2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
		2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
		2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
		2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
		2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
		2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再生クラッシュラン	4.0	0.20	-	-	
		3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
		3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
		3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
		1	消火剤		-	-	-	-	
		2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
		3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
		LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
		1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	4.5	0.33	-	-	4.5
		2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
		2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
		2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
		2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制	I 1)駐輪場の設置 II 1)適切な量の駐車スペース 3)荷捌きスペース	4.0	0.25	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
		3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
		1	騒音		3.0	1.00	-	-	
		2	振動		-	-	-	-	
		3	悪臭		-	-	-	-	
		3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			2.9	0.40	-	-	
		1	風害の抑制		3.0	0.68	-	-	
		2	砂塵の抑制		1.0	0.04	-	-	
		3	日照障害の抑制		3.0	0.28	-	-	
		3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
		2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

Q1 室内環境

- ・ F☆☆☆☆建材を使用

Q2 サービス性能

- ・ 設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

LR1 エネルギー

屋根材は断熱材付とし、天井断熱性を高めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 断熱材はノンフロンとした。

LR3 敷地外環境

- ・ 適切な数の駐車スペースを計画、周辺の交通負荷軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 盲学校・熊本聾学校寄宿舎その他改築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.5	0.40	37.80
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.2	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				52.5	0.20	10.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数